

1 本年度の重点教育目標

自分の考えをもち、豊かに表現し、高め合う子

2 本年度の取組の重点

- (1) 主体的に学ぶ力を育むカリキュラム・マネジメントの充実
- (2) 規範意識を育み、子供に寄り添う生徒指導
- (3) 命を大切に、健康な心身を育む健康・安全指導
- (4) 豊かな心を育む道徳指導と望ましい人間関係を醸成する特別活動の充実
- (5) 多様なニーズに対応する特別支援教育
- (6) 子供と向き合う時間を確保する業務改善と働き方改革
- (7) 地域とともにある学校

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
① 主体的に学ぶ力を育むカリキュラム・マネジメントの充実	○主体的・対話的で深い学びを実現する授業改革に取り組む。（新しいかたちの学びの授業力向上推進事業連携校） ○個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。	b	子供を主語にした授業づくりを通して主体性を高め、自分の考えを表現できる力の育成に取り組んできた。今後は、ICTのより効果的な活用や家庭学習の定着を図るとともに、全国学力・学習状況調査等の分析を踏まえて授業を改善し、学力向上につなげていく。	A	A	・子供たちの興味関心を伸ばし、何事にも主体的に学ぶ、子供を主語にした授業づくりに今後も期待しています。 ・各学年でのICTを有効に活用する様子は見られた。低学年に対し、言葉だけの指示など、難易度が高いように感じる場面があった。工夫して面白い授業をしている先生が多く見られたので、教師間の意見交換がより進められたらと思う。
② 規範意識を育み、子供に寄り添う生徒指導	○支持的雰囲気のある安心して生活できる学年・学級経営を推進する。 ○全教職員によるぶれない指導と温かい見守りを行う。 ○いじめ、不登校の未然防止・初期対応、継続的な自立支援の充実を図る。※不登校コーディネーターとスクールカウンセラーの配置	a	全教職員で共通理解のもと、一貫した指導と子供に寄り添った見守りを行ってきた。今後は、不登校コーディネーターやスクールカウンセラーとの連携を強め、未然防止から初期対応、継続的な支援までの体制をさらに充実させるとともに、子供が安心して生活できる環境づくりを一層推進していく。	A	A	・保護者目線では、まだまだ子供に対して困りごとや悩みを一人で抱える家族が多く感じる。教師と家庭がより信頼関係を深め、その子にとってのベストな環境を整えてあげられるようになる嬉しい。
③ 命を大切に、健康な心身を育む健康・安全指導	○自らの生命を守る態度を育成する。 ○望ましい生活習慣の定着に向けた取組の充実を図る。 ○楽しく運動に取り組む、健康の保持を図る。	a	健康・安全に関する指導内容の充実と日常の生活場面での意識化を図ってきた（食育指導、体力づくり、がん教育、薬物乱用教室等）。今後は、情報モラル教育も含め、学校・家庭・地域が協働して、子供が心身ともに健やかに生活できる環境づくりをさらに推進していく。	A	A	・高学年の福祉体験や人権教室など、社会生活に必要な情報や技術を学ぶ機会を作っていたらいいと感じます。さらに、地域とのつながりを深められるよう、尽力していきたい。
④ 豊かな心を育む道徳教育と望ましい人間関係を醸成する特別活動の充実	○「思いやり・自律・努力と強い意志」を育む道徳教育を推進する。（人権教室・包括センターとの連携・ファミリー教室） ○自主・自律、「ともにの精神」で協力する態度を育てる特別活動の充実を図る。	a	外部機関等と連携しながら、道徳教育を要とした教育活動を通して、豊かな心を育む指導を充実させてきた（人権擁護委員会、地域包括センター等）。今後は、子供たちの発想や自主的な取組を生かした活動を充実させる等、よりよい人間関係を育むための教育活動を工夫していく。	A	A	・人を思いやる心や効力する態度等は小学校での道徳教育や家庭での指導がとても重要だと思います。家庭との連携も含め、今後ともよろしくお願ひいたします。 ・地域コーディネーターとして、子供たちや学校、教師が求める学びの場を作れるよう、努力していきたい。
⑤ 多様なニーズに対応する特別支援教育	○専門性を向上し、担任・保護者との相談体制の充実を図る。 ○ニーズに応じた機動的な支援体制の充実を図る。	a	校内支援委員会を中心に、全教職員の共通理解のもと、きめ細かく適切な支援・指導を継続してきた。今後は、教員の専門性を高める研修を進めるとともに、子供のニーズに応じて機動的に支援が行えるよう、校内外の連携を強化し、支援体制をさらに充実させていく。	A	A	・支援に対して理解ある先生方がいてくれるお陰で、子供たちが落ち着いて生活する様子が見られた。 ・通常級にも困り感のある子もいると思うので、支援級のみならず、通常級へもその輪を広げてほしい。
⑥ 子供と向き合う時間を確保する業務改善と働き方改革	○学校評価、ICTを活用した業務改善に取り組む。 ○ワークライフバランスを意識し、働き方改革を実践する。 ○自己研修の時間を生み出し、授業改革を進める。	b	ICTを活用した校務の効率化や業務の平準化を進め、教員が子供と向き合う時間の確保に努めてきた。今後は、地域との『協働』の視点を加え、家庭・地域・教職員間でのバランスある分担を進めるとともに、生み出した時間を自己研修や授業改善に生かし、教育活動の質の向上につなげていく。	A	A	・ICTを活用し、校務の効率化等を進め、子供と向き合う時間を大切にしたいと思っています。 ・教職員の負担を減らし、またプライベートの充実も図ってほしい。そのために家族や地域が担えるところは効力していきたいと思う。
⑦ 地域とともにある学校	○積極的に情報を発信し、教育活動への理解と協力を得るとともに、信頼関係の構築に努める。 ○CSを活用し、家庭・地域・外部機関との連携、協力により、教育活動の充実を図る。※地域コーディネーターとの連携	a	地域や外部機関との連携を進める中で、地域コーディネーターの働きかけにより、学校と地域・PTAが協働する機会を大きく広げることができた。今後は、CSの機能を生かし連携体制をさらに強めるとともに、情報発信及び地域人材の参画を促すことで、より信頼される学校づくりと教育活動の充実を図っていく。	A	A	・今年度は、地域との関わりも増え少しずつCSとしての活動を進められるようになってきた。 ・地域の方と協力してというところには、また少し課題があるように思うので、活動の幅を広げていきたい。また、教職員一人一人とのコミュニケーションをとり、現場の困り事にも耳を傾けていきたい。

その他ご意見

- ・外部からの評価を取り入れながらの学校経営の難しさがあると思いますが、経営方針の信念を貫いて、目標を達成することを期待します。
- ・教師個々の資質の向上が求められていることへの対応や指導力向上を期待します。
- ・全体的によく頑張っていると思います。
- ・校長先生はじめ、教頭先生、諸先生方にご協力をいただき、本当にありがとうございました。少しずつ地域との連携も出来はじめたと思います。来年度はより活動の幅を広げると共に、より一層、学校や先生方との協力関係を深め、子供たちにとってのよりよい学びの機会を作れたらと思います。今後ともよろしくお願いいたします。